

令和5年第9回大河原町教育委員会定例会会議録

1 招集日時 令和5年9月22日（金） 午後2時00分

2 招集場所 大河原町役場 2階 第1会議室

3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、小山明子委員、鈴木洋教育長

4 説明のため出席した者

櫻田尚 教育総務課長、木村武俊 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監

5 開 会 午後2時00分

6 令和5年第8回教育委員会定例会会議録の承認について

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。

舟山委員、一盃森委員 署名。

7 教育長報告

(1) 一般事務報告

報告第11号 令和5年第3回大河原町議会定例会（9月会議）の結果について

教育総務課長、生涯学習課長より説明。

舟 山 委 員

こども110番の選出の方法は？また、機能しないことが良いが、子供たちが110番の家を意識しているのか。1年に1度新学期にでも子供たちに家を確認させるのが良いと思う。

体操着の件。同じであれば兄弟姉妹で譲り合える。経済的にも良いので、考えても良い時期と思う。

櫻田教育総務課長

こども110番の選出の方法について、毎年春に各学校へ依頼している。学校で通学路を見て、必要と思われる場所を教育委員会へ報告いただき、教育委員会で、110番の家を引き受けていただけるようお話ししている。

今までに断られた経緯は無い状況である。

周知の方法だが、例えば、見守り隊の顔合わせ会に合わせて周知するとか、新1年生の教員が付き添っての下校時など、工夫をして学校といっしょに周知をしていきたいと思う。

体操着の件については、供給業者との調整もある。大河原小学校は少なくとも30年以上変わっていないので、学校運営協議会にて話がでると思う。

丹羽委員	教職員の時間外の件。部活動も勤務時間外に入るが、部活動の指導を好んでやっている先生もいる。全部がマイナスではない。
小野寺専門監	確かに、部活動をやりたい先生もいる。しかし、年齢層が高い先生方。若い先生は部活動をやりたい先生が減っている。負担に感じている先生もいるので、時間外勤務は削減できれば良いと思う。先生方が選択できれば一番良いのではないかと。部活動の地域移行について、土日の移行から進めて行ければ良い。
鈴木教育長	部活動の地域移行について、推進協議会が開催された。様々な課題があるが、まずは土日の地域移行を目指す。これから当町でも試行錯誤しながら取り組んでいく。
丹羽委員	柴田町に仙台大学がある。柴田郡内の中学校が学生に指導を頼む形が取れば良いのではないかと。
鈴木教育長	仙台大学の副学長に協議会委員になっていただいている。平日部活動の指導をすでに学生にやってもらっている部もある。今後、地域移行で学生1人での指導は、事故の対応など難しい部分もあるので検討が必要である。
小山委員	読書の時間が減ってきているとあるが、本を読まないと考えるのが面倒になる傾向がある。文章の言葉が出てこない。漢字も読めるが書けないとかが増えてくる。図書館に行きづらい児童生徒のために、学年の廊下とか、学級に本を置くとかして、本を読みやすい環境があれば良い。
鈴木教育長	議会でも質問があり、廊下などに置くようにして、手に取りやすい環境にした方が良いご提案があり、学校によっては、実施しているところもある。
丹羽委員	ただ、置いてあるだけでは読まないと思うので、先生に良い本を勧めてもらえば良い。
舟山委員	体力・運動能力向上センターについて。本町で分析をお願いしたとあるが、その他にどのような活動があるのか。活用できれば良い。
小野寺専門監	各市町の学校に巡回して指導いただいている。実際に体育の授業を見学して、運動量が不足の場合の授業の改善など指導助言いただく。また、学校全体の取組みなどをヒアリングして、他の町の良いところの紹介などもやっている。

(2) 専決事務報告

報告第3号 専決処分の報告について

(令和5年度大河原町一般会計補正予算(第5号))

教育総務課長、生涯学習課長より説明。

8 議 事 なし

9 その他

(1) 教育長報告（校長会資料による報告）

1 野球関連

(1) 河北春秋

(2) 『あぶさん』（水島新司絶筆作品）

道徳教材「星野君の二塁打」が道徳教科書から消える。監督の指示を絶対視する教えが自主性を重んじる時代にそぐわなくなったのが理由である。また、野球というスポーツを通して、人間的成長を図るという点において、水島新司先生の作品は、子供たちにぜひ読んでもらいたい。

2 授業をつくる

(1) NHKインタビュー「タレント小塚一機」

(2) 『新版 学校を改革する』（佐藤学）

タレントの小塚一機さんの意識改革の話。授業にも当てはまる。子供の発言、子供の疑問やつまずき、子供同士の対話にしっかり耳を傾け、子供の声を大切にして授業を進めることが必要である。子供が分かり満足する授業を行うには、子供同士の「対話的な学び」や「主体的学び」を取り入れることが必要なのである。

3 児童生徒の生活状況

(1) 全国学力・学習状況調査質問紙調査結果

(2) 編集手帳（R5.7.15 読売）

(3) 「タイパ時代の我慢・努力論」（秋田喜代美）

全国学調の児童生徒質問紙調査の結果。「3 児童のよさを認め伝えている先生」の割合が全国値より3.2ポイント高く、「4 分かるまで教えてくれる先生」の割合が全国値より4.8ポイント高い。当町の先生はよい先生が多いのが分かる。

本町の中学生はスマホやゲームの時間が長い。ほどほどに使用し読書や勉強の時間を確保するという意識を醸成したい。

4 資質・能力の育成

(1) 国語科における資質・能力の育成（大塚健太郎）

(2) 算数科における資質・能力の育成（笠井健一）

(3) 国語授業の「個別最適な学び」と「協働的な学び」（水戸部修治）

大塚先生、笠井先生、水戸部先生ともに「対話的な学び」が大切とある。大塚先生の論説。「読むこと」では、毎回登場人物の気持ちを考えたり形式的な段落分けに終始したり教師の解釈を探し当てたりするような学習は行わないことが大事である。

5 亀山耕平さんの体操教室・講演会

世界選手権で金メダルをとった亀山耕平さん（仙台大学卒）が、小学生を対象に「体操教室・講演会」を無料で実施する話があった。体育の授業だけでなく、志教育も兼ねた取組になりそうである。

6 教職員の事故防止（風通しのよい職場づくり）

管理職を含め職員同士が相談し合い、支え合える職場づくりが大切。

7 生徒指導

不登校支援での家庭とのつながりが大切。

8 人事異動等について

人事異動関係について説明。

9 その他

各校の授業、研修会、事業の様子について資料により説明。

丹羽委員	P15の民主主義の哲学。「他者と共に生きる生き方」を意味している。大変すばらしい。
	P18対話的学びの話。4人以下の小グループの学び合いは、どの形態の授業よりも強制的に学びを促す機能がある。本当にそのとおりだと思う。
	みんなで伸びるには、対話的学びは最高の授業であると改めて感じた。
一盃森委員	星野君の二墨打の話。規則を守る話で私も扱ったことがある。規則を守ることを考えさせる授業だが、場面によっては違う選択肢もあり非常に難しい教材であった。
	佐藤学先生について、膨大な数の学校授業を観られて分析し、指導されていて、これからの学校変革を具体的に提案している。同じように私も感じる。
	より良い学校づくり授業づくりのため、例えば、実際に学校で著書のとおりやってみてはどうかと思う。4人グループの学び合いなど。24人学級や32人学級はとても活動させやすい。いろんな形でグループが作りやすく、中でも4の倍数でのクラスは指導もしやすい。経験則で感じていたが、やはり授業を進めていく上で効果的である。子供たちが一つの課題を解決するにあたり、協同して取り組んでいく上で有効である。皆でぜひ、取り入れてほしい。
	小堺一機さんの話。使い分け。先生方は子供1人1人に応じて、働きかけたのテクニックを磨いて、身につけてほしいと思う。

小山委員	P19 佐藤学先生の話。グループ学習はすごく良いと思う。集団だと集中できない場合があり、また、2人だけだと相手の意見しか聞けないので、4人は最適である。何人かの意見も聞きつつ、4人の中で自分の意見も言える。分かる子が分からない子に教え、取り残される子が少なくなると思う。 机のコの字型もすごく良い。周囲を意識しながら授業に取り組み、みんなの顔が見えるのも良いと思う。
一盃森委員	佐藤学先生のパラドクスの話。学校の改革は、それが「可能である」と信じる者によっては達成不能であり、ほとんど「不可能である」ことを知り尽くした者だけが、その成功を導くことができる。とあるが教育長の解釈を聞かせていただきたい。
鈴木教育長	佐藤学先生が学校で失敗した記述があった。学力向上という成功目標ではなく、学力保障という子供たちに学びの楽しさとか学びの充実を図っていく目標を持って学校に入った時に夢は実現すると私は捉えた。
丹羽委員	先生方は心理学をしっかりと学んでもらいたい。子供たち1人1人に寄り添うことができるように。

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和5年度行事予定について説明。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和5年10月20日(金)午後2時から開催する。

11 閉会宣言 午後4時00分

令和5年10月20日

署名委員

署名委員